

イセエビによるキタムラサキウニの捕食行動

福島県水産海洋センター 漁場環境部

1 部門名

水産業－資源管理－採貝藻

2 担当者名

千代窪孝志

3 要旨

近年、複数の磯根漁場では 2020 年頃からキタムラサキウニ（以下、ウニ）の急激な減少や移植個体の消失がみられ、磯焼けが解消している漁場がある。他県ではイセエビが他種のウニ類を捕食することが報告されており、本県の磯根漁場においてもウニを捕食している可能性が考えられたため飼育試験を行った結果、イセエビによる特徴的な捕食行動が確認された。

- (1) 試験 1：令和 6 年 9 月 9～30 日（水温 23.2～26.7℃）に 2 トン円形水槽使用（水量 0.7 トン、注水量 7 トン/日）し、イセエビ 1 個体とウニ 30 個体を収容した結果、22 日間にウニ 27 個体が捕食された（図 1）。
- (2) 試験 2：9 月 24～30 日、に上記の水槽内にかごを 2 個設置し、それぞれに小型イセエビ 1 個体と大型ウニ 4 個体を収容した結果、ウニが 4 及び 2 個体捕食された（図 1）。
- (3) イセエビがウニを捕食する際、歩脚を用いて口器と生殖腺等を摂食し殻を残す特徴的な行動がみられた。しかし、大型イセエビ（体重 500.2g）が小型ウニ（殻径：42.5～46.2mm）を捕食する際は、一部のウニで殻全体～半分の欠損がみられた（図 2）。

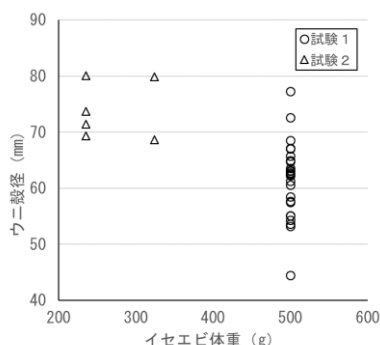


図 1 イセエビが捕食したウニの殻径

図 2 大型イセエビに捕食されたウニの殻
(左からウニの殻径 約 43mm、46mm、72mm)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究機関 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 アワビ資源の増殖・管理に関する研究

5 主な参考文献・資料

- (1) いわき沿岸でみられたウニ資源の減少と他の磯根生物の特異現象.水産海洋研究センター. 令和 4 年度参考となる成果.2022.